ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2023 年 8 月 4 日　16:00～17:00
説明者	コーポレートコミュニケーション部　副部長 兼 IR グループリーダー　髙玉 義紀
説明資料	2023 年度第 1 四半期決算の概要 及び 2023 年度業績予想の概要

Q&A

■ライフ＆ヘルスケア・ソリューションセグメント

Q1. ライフ&ヘルスケア・ソリューションの販売動向について説明して欲しい。

A1. 1Q 対前年同期比における販売数量のマイナスの多くはビジョンケアでの在庫調整での販売減少、残りは不織布での需要減少により販売減少となっております。ビジョンケアの在庫調整につきましては、末端の需要は堅調に推移していると認識しておりますので、顧客での一部在庫調整に起因するものと認識しております。2Q 以降は在庫調整が解消されると見込んでおります。不織布につきましては足元の需要の減少はございますが、下期は事業統合効果もございますので前年からは販売増加を見込んでおります。オーラルケアにつきましても市場の成長率同様の販売計画を見込んでおります。農薬につきましては、特に海外で近年農薬登録を取得した薬剤はジェネリック剤と競合しておりませんので、販売は堅調に推移すると見込んでおります。1Q から 2Q にかけては農薬での海外需要期、ビジョンケアでの在庫調整解消により販売数量の増加を見込んでおります。下期にかけても各事業セグメントとも販売は堅調に推移すると見込んでおります。

Q2. 年初計画時点でビジョンケアの在庫調整について計画に織り込めなかった背景について説明して欲しい。

A2. 末端の需要が変化していない中で先ほど申し上げた顧客での在庫削減の影響は織り込めませんでした。

Q3. ライフ&ヘルスケア・ソリューションの年初計画対比で固定費他が改善している背景について説明して欲しい。

A3. 1Q 対前年同期比減益となる背景も踏まえまして、コストの妥当性を見直し固定費等の削減を織り込んでおります。

■モビリティソリューションセグメント

Q4. モビリティソリューションの年初計画対比で交易条件が改善している背景について説明して欲しい。

A4. 年初計画ではナフサを中心とした原料価格は一定と見込んでおりましたが、上期原料価格下落による期ずれのメリット及び円安の影響を見込んでおります。また、年初計画では PP コンパウンドで 22 年度期ずれ益が発生しており、その解消を当初は織り込み交易条件の悪化を見込んでいましたが、23 年度 1Q でも原料価格下落による期ずれ益が発生しましたので、交易条件は改善を見込んでおります。タフマーにつきましても 1Q 原料価格が下がっている中、価格維持に努め交易条件が改善しました。

Q5. モビリティソリューションにおける PP コンパウンドの数量計画について説明して欲しい。

A5. 全体を通しては 22 年度からは自動車生産台数の増加を背景に販売は増加しております。北米につきましては 1Q、2Q ともに販売は堅調に推移しています。下期につきましては金利上昇を背景に、上期からは販売減少を見込んでおります。中国につきましても、市場全体は改善傾向にございますが、当社の販売状況は日系の OEM 減産影響を受け、前年対比におきまして販売減少を見込んでおります。

Q6. モビリティソリューションにおける 22 年度下期から 23 年度下期にかけて固定費が増加する計画となっている背景について説明して欲しい。

A6. 欧米でのインフレ対応による労務費単価の上昇や、試作案件や開発品の受注増加を背景にソリューション事業での人員増により労務費が増加しています。

■ICT ソリューションセグメント

Q7. ICT ソリューションの 22 年 4Q（1-3 月）から 23 年 1Q（4-6 月）にかけて増益となる背景について説明し

て欲しい。

A7. 半導体関連製品については 4Q 中国の季節性の影響による需要減少に加え、IFRS の会計基準により租税公課の計上時期は 4Q 一括となっていることにより費用が増加しました。1Q に関しましては、スマートフォン関連は引き続き需要減少となっているので改善はございませんが、半導体関連は季節影響がなくなりますので、販売は改善しております。また、円安による影響及びコーティング機能材での原料価格下落により交易条件も改善いたしました。

Q8. ICT ソリューションの 23 年 1Q（4-6 月）から 23 年 2Q（7-9 月）にかけて増益となる背景について説明して欲しい。

A8. 需要が徐々に回復していることを前提に販売数量の増加を見込んでおります。特にアペルにおきましては、2Q 以降は XR 向けでの拡大を見込んでおります。ペリクルにつきましては、EUV、DUV ともに販売増加を見込んでおります。特に DUV につきましては 7 月に事業買収した効果も見込んでおります。イクロスにつきましては一部中国の顧客においては受注が戻ってきているという話しも伺っております。また、半導体後工程につきましては早めに在庫調整が始まっていたと認識しておりますので、2Q にかけて緩やかに改善を見込んでおります。

Q9. 2Q の見通しや 4Q 季節性の影響を鑑みると ICT ソリューションの下期 170 億円のコア営業利益の計画は厳しいように思えるが、上期から増益を見込んでいる背景について説明して欲しい。

A9. 半導体関連の需要が下期から回復することを見込み数量の改善を計画しております。スマートフォン関連につきましては改善を見込んでおりませんが、アペルの XR 用途向けにつきましては当初想定より販売拡大ペースは緩やかな見通しでおりますが、上期から下期にかけては販売拡大を見込んでおります。

Q10. ペリクルの動向について事業買収の効果や、EUV ペリクルの透過率 90%品における市場浸透状況について説明して欲しい。

A10. 事業買収した DUV ペリクルにつきましては FPD 向けが中心なので LSI ペリクルに比べると 1 枚が大きく販売単価が高いので、枚数ベースでは大きく増える計画ではございませんが、売上収益ベースでは 22 年度対比で倍増する計画としています。EUV ペリクルにつきましては、22 年度対比で倍増の売上を図る当初計画を目指してマーケティング活動をしております。足元の販売は透過率 88%品が中心ですが、今後は 90%品を中心に販売拡大を計画しています。

■ベーシック＆グリーン・マテリアルズセグメント

Q11. ベーシック＆グリーン・マテリアルズの 22 年 4Q（1-3 月）から 23 年 1Q（4-6 月）にかけて増益となった背景について説明して欲しい。

A11. 22 年度 4Q は需要の下落により在庫削減も行ったことから稼働率を下げて運転いたしました。その結果収率の悪化や在庫固定費、それに加えまして IFRS の会計基準により租税公課の計上時期は 4Q 一括となっていることや修繕費の増加等により費用が増加しました。1Q にかけましては、稼働率は低いものの 4Q からは改善しておりますので、収率が改善していること、在庫固定費、租税公課、修繕費等の費用が減少に加え、フェノール子会社株式譲渡による損失の解消により増益となりました。

Q12. ベーシック＆グリーン・マテリアルズの市況やクラッカー稼働率の状況について説明して欲しい。

A12. クラッカーの稼働率は、1Q は 8 割程度、2Q はトラブルの影響もあり 7 割程度を見込んでおります。下期につきましては 8 割後半を見込んでいます。市況につきましては、フェノール、ビスフェノール A ともに需給環境が悪く市況は下落しております。国内につきましては原料フォーミュラをベースに価格を決めておりますので、市況の影響はございませんが、中国の JV については市況下落の影響を受け年初計画からも減益を見込み厳しい状況となっております。

Q13. ベーシック＆グリーン・マテリアルズのトラブルの状況及びその影響額について説明して欲しい。

A13. エチレンクラッカーにトラブルがございまして、7 月中旬から停止しておりましたが、本日稼働を再開いたしました。影響額につきましては 50 億円程度の損失を見込んでおります。

Q14. ベーシック&グリーン・マテリアルズにおいて、過去から様々な構造改革を行っておりボラティリティ低減を図っているはずなのに、22 年 4Q（1-3月）から 23 年 2Q（7-9 月）にかけて 3 四半期連続で赤字となり高いボラティリティとなっているが、今現在どのような課題認識をもっているのか説明して欲しい。

A14. 安定的に 200~400 億のコア営業利益を見込める構造になっているとお伝えしてきていますが、足元においては需要が弱いことによる販売数量の減少が影響しています。下期の計画は需要回復を背景に販売数量の回復を見込み 160 億円のコア営業利益を計画しております。数量が改善すれば先ほど申し上げました利益水準を達成できると認識しております。しかしながら需要が回復しなければ上期の利益水準になることも予想されますので、構造改革第一幕については手を打ちましたが、更なるボラティリティ低減に向けて第二幕についても構造改革を進めていかなければいけないと認識しております。

■全社

Q15. 財務 CF を年初計画の△230 億円から△80 億円に見直した背景について説明して欲しい。

A15. 1Q の状況及び業績下方修正を背景に有利子負債を見直しました。

以　上